

京都大学瀬戸臨海実験所振興會

水族館月報

No. 106

1961. 6月(7月5日)

録 事

6月2日 原田研究員奄美大島より帰る。

6月6日 本日より4日間の予定で取員の身体検査が白浜温泉病院で行なわれた。

6月7～11日 内海委員文献調査のため京都に出向。

6月14日 宮谷事務長増築工事現場視察と水族館入場料問題打合わせのため来館。

6月15日 大林組工務部長桑山音吉氏、建築部理事橋本課長四方隆一氏、和可山出張所中村暎二氏は水族館増築工事視察と工事打合わせのため来館、実験所事務室において内海、時岡、山路、布施各委員と打合わせを行う。

6月29日 第10回振興会委員会総会を開催、京都より宮地会長、宮谷監事、松森委員、白浜町より峯尾、浦委員、岩城監事、実験所より内海、時岡、山路、布施各委員出席。(議事録参照)

6月末水槽室新築工事進捗状況

1. 水槽室地下室床及地下貯水槽底部の鉄筋コンクリート打おわり。

2. 柱、壁、床の配筋工事

柱、壁、床の客用通路床より下の部分の配筋工事及び型枠工事をおわりコンクリート打の段階になっているが、雨のため約5～6日おくらせている。

昭和36年度委員会総会記録

日時 昭和36年6月29日 9時～13時
場所 京都大学瀬戸臨海実験所 特研会議室
出席者 宮地会長，浦委員，峯尾委員，内海委員，時岡委員 山路委員，布施委員，
松森委員，宮谷監事，岩城監事 以上10名 書記：深見事務員

記

1. 議長の議事の決定
 - 1). 議題案の通り決定
2. 委員・常務委員代表の交代および後任の推薦
 - 1). 加藤委員は委員を辞退のため解任と決定
 - 2). 京都大学理学部事務長 榎佐松森委員を紹介
 - 3). 常務委員代表については現在増築の途中であるため，山路委員留任の提案あり，その杯に決定する。
 - 4). 水族館に事務主任をおくこととし，深見事務員を任命と決定。
3. 1960年度経理および事業報告
 - 1). 本年度は水族館の増築を控えて諸経費を出せるだけ節減する杯つとめてきた旨報告。
4. 監査報告
 - 1). 予算運用の際予算に対して決算が非常に大きくなる場合は，予め文書によって承認をとること。
 - 2). 大学への備品の寄附は毎年理学部長宛寄附手続をとること。
 - 3). 臨時部歳出より支出の“海の生物生態写真集”再版の経費は經常部の歳出より支出する杯すること。
 - 4). 実験所経費より支出印刷した南極生物報告は実験所振興会発行とすると共に現在残っている部数は振興会の財産目録に入れることとする。
 - 5). 現金出納簿の残額は現金と予金の部にわけて記載すること。
 - 6). 郵便料金は毎回請求することをせめ切手受拂簿によって処理すること。

以上の外の経理はの状況は非常に良好である。

5. 水槽室構築経過報告

- 1). 昭和36年3月25日 近畿財務局より建築許可書受領
- 2). 5月 8日 大林組と水槽室建築の件で契約
- 3). 5月15日 斉藤商店と給排水工事について契約
- 4). 5月15日 大林組と電気関係工事について契約
- 5). 水槽室の完成引渡しは10月15日で、この時には水槽室で魚を飼育できる状態で引渡しを受ける予定。
- 6). 水槽の中の岩組みはとちらでやることになっているが、施工者を早く決定しておくこと、岩組みの研究のためには他の水族館を見てまわることも必要であり、絵かきさんに絵を書いてもらうことも必要であるなどが話し合われた。

6. 1961年度予算の件

- 1). 運賃費用を生み出すため、歳出は出来るだけおさえて組むことを基本方針とする。したがって新規のまたは大きな計画は、入場料増額とともに10月新館完成の時に委員会を開いて追加予算として組むことに決定。
- 2). 常務委員手当は現実の状態と性向から考えて常務委員会費とする。
予算案は原案の通り可決

7. 入場券発売について、交通業者及幹旋業者と連帯の件。

- 1). 現在は明光バス、日本交通公社、番前山植物園との間のみ連帯契約をむすんでいる。
- 2). 旅行幹旋業者については確実な経営（たとえば国鉄でみとめた業者）に限り、申込みに応じて契約する。
その他の業者の場合は委員にかけて審議決定する。但しいずれの場合も入場料は白浜町内で銀行等金融機関を通じて受領できること、手数料は7%を超えないことを条件とすること。
- 3). この原則にもとずき申し込みのある近畿日本ツーリストと南海交通社とは契約することを確認。
近畿財務局長から京大総長宛の文書の中に「交通を担当する業者に対して連帯手数料として、会社売上金の7%を還付している事は本来の趣旨を逸脱している観がある」

- 4). いこら会との契約は次の委員会まで保留すること。

8. 入場料改訂の件

1) 入場料改訂を必要とする理由.

- イ. 水族館職員を増加する必要があること.
- ロ. 新館には冷暖房設備をすることになっているので動力費が非常にかさむこと.
- ハ. 国よりの借料が非常に高くなること.
- ニ. 珍しい魚を入れたいこのためにも経費がかさむこと.
- ホ. 第二期, 第三期工事を早急に実施する必要がある. これが行なわれなければ団体入場の際の混雑はさけ難い. この建築費用を積立てるため.

以上の理由から大人の入場料を40円としたいという案が出されたが, 入場料は40円でも決して高額ではないが, 一律に10割の値上げは考えねばならぬ等の意見が出て, 入場料改訂の問題は次の通り決定した.

2) 改訂入場料

大人	30円	10円値上げ
中学生	20円	据置
小人	10円	据置

昭和36年10月15日新館開館と同時に実施する.

3) 団体入場割引率

30人以上	1割引
100人以上	1割5分引
300人以上	2割引

実施の期日は入場料の時期と同じ

以上の料金にて1年間実施した結果予定した増収が得られない場合はその際値上げを考慮する.

9. 振興会の改組の件

振興会を法人組織に改めない場合は営業を許可されないことになっているので, 10月1日を因途として改組を行うこと.

10. 奨学金の件

- 1) 黒田徳米氏の研究費を毎月1万円年12万円を出すこと.
- 2) 大学院学生の奨学金は申し込みがない実状からも考えて本年は計上をとりやめること.

1. その他

- 1). 博物館のペンキ塗装を行ってほしい。
- 2). 水族館に団体入場した場合、非常に混雑して足をはく。一方通行で見て行けるよう考えよとの意見が観光客の声から出された。根本的には第二期、第三期の工事が完成しない限り解決しないが、水分でも緩和する方法を研究すること。
- 3). 観光協会費については指差費の中から100,000円支出する。但し法人組織になった場合はどうなるかわからない。
- 4). 実験所前の県道を舗装する計画あり、実験所からも分組金を出してほしいとの要望あり、保留。
- 5). 新築落成記念行事について
委員をつくって計画を立てること。
費用は鳩居部に予算化された建築雑費による。
日取りについては10月15, 16, 17日には町の祭典があるからさけてほしい。

以上

業 務 概 況

◎ 6月の入場者数

区 分	大 人		小 人		合 計		
	本月分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計	
水族館発売	個人	8471	40626	183	2235	8654	42861
	団体	18309	78191	—	—	18309	78191
交通公社発売	6586	26769	—	—	6586	26769	
明光バス発売	14179	82679	114	1813	14293	84492	
合 計	47545	228265	297	4048	47842	232313	
無 料	ロータリークラブ会員他				320	948	

団 体：一般 290組、学生 13組 合計 303組

◎ 6月の事業収入 (今年度累計)

観光券売上金	1,255,891	4,649,188
窓口売上	482,598	2,156,069
交通公社クーポン	110,823	463,949
明光バス観光券	662,470	2,029,170
予金・積立金利息	—	709,286
手数料	69,052	243,302
絵はがき拂下	41,170	158,160
パンフレット拂下	1,530	5,460
南極生物報告拂下	576	576
魚 報 拂 下	—	—
雑 収 入	20	175
諸施設改善積立金より繰入	7,130	5,930,190
合 計	1,375,369	11,696,337

※ 明光バス観光券未収分 大人券 18092枚
小人券 232枚

◎ 6月の支出

水族館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	266,645	548,783	
会 議 費	32,590	44,590	
備 品 費	1,200	5,950	
消 耗 費	28,050	56,325	
車 業 費	49,764	214,918	
雑 持 費	1,800	34,095	
其 他 諸 経 費	107,722	273,092	
積 立 金	182,436	878,769	
合 計	670,207	2,056,522	

実験所経費

費 目	金 額	累 計	備 考
研究費	—	4530	
奨学金	40,000	60,000	数回取戻其研究費
備品費	975	14,294	
消耗費	—	—	
刊行費	—	10,284.0	
役務費	—	18,520	
合 計	40,975	200,184	

博物館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人件費	56,453	116,715	
備品費	—	—	
消耗費	—	3,000	
役務費	—	—	
合 計	56,453	119,715	

臨時費

摘 要	金 額	累 計	備 考
水族館増築費	—	7,130	
合 計	—	7,130	5,948,458

支出合計

(今年度累計)

水族館経費	670,207	2,056,522
実験所経費	40,975	200,184
博物館経費	56,453	119,715
臨時費	7,130	5,948,458
合 計	774,765	8,324,879

◎ 6月末現在高

前月よりの繰越	2,770,854
今月の収入合計	1,375,369
今月の支出合計	774,765
現 在 高	3,371,458

◎ 前年度との比較

	1960	1961	増	減
入 場 者 数	48,310	47,842	—	468

水族館記事

- ◎ 4日に入槽したアカウミガメがワミガメプールであげられまわって半死病状を呈し、入っていたニギタイなどほとんどの魚を殺してしまった。翌日、このプールを掃除したところ、アカウミガメの卵が約20個見つかかったので、ガラスのバットに入れて観覧に供した。
- ◎ 10日、メロアサゴ(35.12.21入槽、体長140cm、重さ4貫)が鉛板取替の時3時間半の断水のため死亡。他の魚類にもこの断水の影響は大きかった。
- ◎ 10日、元気だったNO.13水槽のアカハタが10数個体一度に死亡。
- ◎ 11日、小アジ約500匹入槽、現在約300匹。
- ◎ 13日、白点病が発生して、タカノハダイ2個体、アカハタ2個体、オニオコビ3個体が死亡。
- ◎ 13日、NO.30水槽のマダイ1個体が夕方からあがれ出し、NO.24大水槽に移した数時間後に死亡。肛門に長さ2cmの裂傷があったほか、内傷・外傷とも見あたりなかった。全長67cm。
- ◎ 近畿・四国・東海地方をおそった25日の集中豪雨で水槽の海水の比重は26日朝の観測では1.4767と下ったが水槽内の動物にはさしたる影響はなかった。その後、月末まで比重は1.8357以上になっていない。
- ◎ サンゴ類とともに、NO.4水槽に多数のイトカリを入れてみたところ、その後は底近くに白い膜のできるのが見られなくなった。
- ◎ 6月30日現在、観覧水槽に収容飼育中の動物は、総計156種、2780個体以上で、その種別構成は下記のとおり。

ヒドロ虫類	1種、	エビ類	8種、	ヒトデ類	6種、
ウミトサカ類	1種、	ヤドカリ類	4種、	クモヒトデ類	1種、
ヤギ類	1種、	カニ類	6種、	ウニ類	11種、
イソギンチャク類	6種、	シャコ類	1種、	ナマコ類	6種、
イシサンゴ類	5種、	アメフラシ類	3種、	ホヤ類	1種、
ハナギンチャク類	1種、	二枚貝類	7種、	軟骨魚類	6種、
多毛類	2種、	巻貝類	13種、	硬骨魚類	57種、
カブトガニ類	1種、	ウミシダ類	2種、	カメ類	3種、
フジツボカメノテ類	4種、				

資 料

- ◎ 6月の気象 (9階観測)
 南水槽室 (水温・比重はN0.25水槽)

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数 16	3	8	5
室 温 (°C)	$\frac{19.8 \sim 22.8}{21.4}$	$\frac{20.3 \sim 23.5}{22.3}$	$\frac{23.4 \sim 25.3}{24.0}$
水 温 (°C)	$\frac{19.78 \sim 21.59}{20.54}$	$\frac{20.41 \sim 22.00}{21.26}$	$\frac{22.39 \sim 24.23}{22.96}$
比 重 (015)	$\frac{24.54 \sim 25.01^*}{24.83}$	$\frac{24.60 \sim 25.36}{24.94}$	$\frac{14.77 \sim 25.17}{20.89}$

取入口

水 温 (°C)	$\frac{19.53 \sim 22.41}{21.03}$	$\frac{21.40 \sim 23.50}{22.22}$	$\frac{22.19 \sim 25.00}{23.72}$
比 重 (015)	$\frac{25.12 \sim 25.40^*}{25.24}$	$\frac{24.79 \sim 25.37}{25.06}$	$\frac{18.74 \sim 25.28}{23.38}$

* 上旬の比重は7日から10日までの4日間についての結果

来 訪 録

- 6月9～10日 米口フリンストン大学のProf. Robert D. Allenは大阪
 大学蛋白質研究所の中島宏通氏と共に海中原生動物調査のため来所。
 6月20日 Prof. Robert D. Allenは 研究のため再び来所、7月6日まで
 研究の予定。

訂 正

昭和35年度年報N0.9の財産目録の所有財産に南極生物報告4200部 金襴
 585,000円を附記する

昭和36年7月5日 (NO.106)

編集兼
発行者

山路 勇

発行所

瀬戸内海実験所振興会
和可山寮 白浜町
瀬戸内海実験所内
(Tel.白浜温泉 515)